

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成27年3月24日

施設名	牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部 環境共生課
-----	-------	------	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県牧野記念財団	指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200-6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の收受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する』 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><植物園面積> 約17.8ha（うち6haを利用に供用）、駐車場（普通車など195台、バスなど8台）</p> <p><主要施設> 牧野富太郎記念館（本館、展示館）、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど</p> <p><開園時間> 午前9時～午後5時 <休園日> 12月27日～1月1日</p> <p><主な料金> 入園料／一般720円（高校生以下無料）、団体620円（20名以上）、年間入園券2,880円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料（1時間当たり）／ 映像ホール1,440～1,850円、アトリエ実習室510～620円など 撮影料／業として行う写真の撮影：撮影者1人当たり日額1,840円、業として行う映画の撮影：撮影機1台当たり1時間3,700円</p>		
職員体制	常勤職員： 12 人 契約職員： 31 人 合 計： 43 人		

「職員数は、平成26年4月1現在」

2 収支の状況

単位：千円

		24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(予算)
収入	県支出金	325,906	325,884	352,562
	使用料・手数料	66,092	56,375	73,907
	その他	5,114	6,412	5,165
	収入計	397,112	388,671	431,634
支出	事業費	224,957	215,305	231,322
	人件費	171,570	170,344	197,289
	その他	642	3,022	3,023
	支出計	397,169	388,671	431,634

※管理代行業務に係る収支のみの金額です

3 利用状況

	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	171,400	146,019	180,000
②利用者意見等の反映	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント・教室・企画展・常設展でアンケートを設置することで、来園者やイベント参加者の意見を把握し次年度以降に反映している。 ・ 利用者からの意見に対して、連絡会議や事務連絡等を通じて職員全員に情報共有を行っている。 		
③その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年度は、「五台山花絵巻四ノ巻」を皮切りに様々なイベントを企画し好評を博した。また、ハワイと高知の交流のきっかけとなった桜寄贈から100周年を迎え、植樹に関わった牧野植物園において、ハワイアンフラワーフェスティバルも開催した。 ・ 夏場には「夜の植物園」や「五台山 観月会」等を開催した。年間入園者数は146,019人と目標の18万人には届かなかったものの高い数値を確保できた。 		

4 平成25年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われている。 ・ 南海トラフ地震対策として、防災訓練や地域との意見交換を実施している他、県の避難所運営マニュアルを参考に対応が進んでいる。
②利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベビーカー、車イスの貸出等、来園者にとって利用しやすい管理運営に努めている。 ・ 外部で行われる接遇セミナー等に参加するほか、財団内部でも情報共有や勉強会を実施している。 ・ ボランティア制度を見直し、園内ガイドや教室の補助等においてサービス向上を図っている。また、ボランティアの知識向上のため講習会を実施している。 ・ ニュースレターの発行や各種催し案内の県内外への配布に加え、プレスリリースやSNSの活用を進めており、効果的な広報に工夫が見られる。 ・ 中学校教員の受け入れにより、学校教育の立場を取り入れた教育プログラムを作成した他、学校への出前講座等を実施した。 ・ 来園者に楽しんでいただけるクイズの設置や、常設展へのアンケート設置、牧野博士のスケッチの活用など昨年の指摘事項に対する工夫が図られ、サービス向上につながった。

<p>③事業実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園地管理では、イベントに合わせた展示方法の工夫を行い、博士ゆかりの植物や高知県の野生植物の植栽を充実させることにより、施設の独自色を打ち出している。また、県指定の絶滅危惧種の植栽や薬用植物の植栽も行い園地の充実を図っている。 ・栽培管理においては、病害虫の初期防除の徹底や、施肥・土壌改良等、植物に合わせた管理が出来ている。また、草刈り、薬剤散布、選定の作業にあたり来園者への配慮がされている。 ・基礎研究分野では、国内外で採集された標本について分類学研究の成果として、学術発表や学会発表を行った（6論文、6演題）。標本数は1年間で14,854点増加し、総数25万2,108点と充実を見ている。 ・薬用植物研究では、ホソバオケラの試験栽培を実施し生育状況を調査した。また、イノコヅチやシャクヤクの成分分析や試験栽培、ミャンマー産植物の代替生薬としての可能性調査を行うなど、中山間地域における産業振興に向けた研究調査を実施している。
<p>④収支の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用料金収入は、56,375千円と対前年度比85.3%となったが、部門ごとに外部委託を導入するなど経費の節減に努めている。 ・HPやメディアの活用など、広報活動のさらなる充実による入園者を確保及び外部資金の確保による収入増を期待する。
<p>総合評価</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県外からの来園者数が3割を占め、県民の憩いの場としてだけでなく、高知県の観光振興に寄与できている。今後、関係機関と更なる連携のもと入園者数の増加に努めることを期待する。 ・植物研究、植物管理、普及教育など多岐にわたる業務において、高度な技術を有しており、全国巡回展などにより日本の植物園全体のレベルの底上げのためにも貢献することを期待する。 ・植物採集を続けていく中、今後、植物が増えてきた時にどの様に対応するか、場所・人の問題を併せ考えていく必要がある。

【評価の目安】

A:仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
B:おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
C:仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
D:管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの